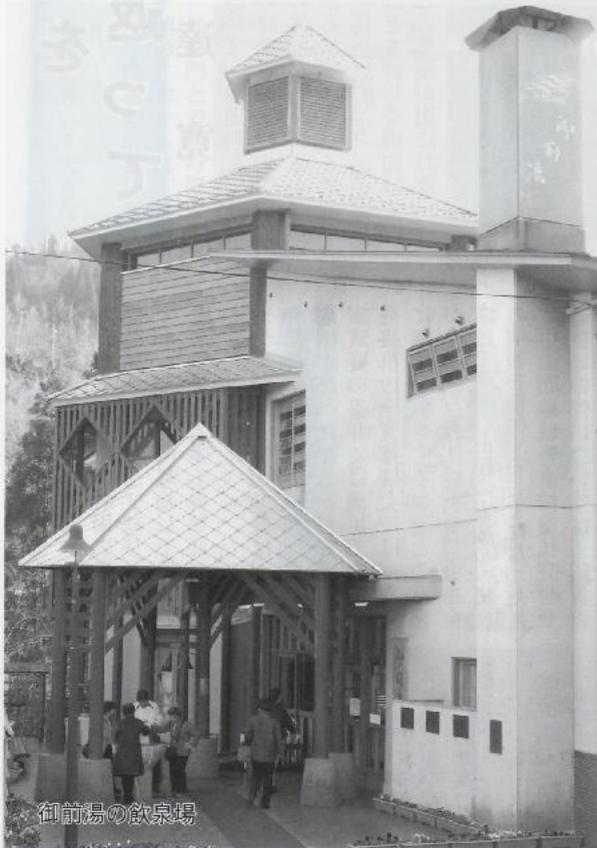


たけた

市議会だより

No.7 発行 平成19年2月1日

編集 ■市議会だより編集委員会 ☎0974-63-4813 印刷 ■えとう印刷



御前湯の飲泉場

初山湧水の飲泉場



薬泉堂の飲泉場



国民宿舎直入荘前の飲泉場



「自然・歴史・文化を育む名水名湯田園観光都市」
名湯(その3) 長湯温泉の飲泉場(竹田市直入町大字長湯)

木を植えた男

一人暮らしの羊飼いの老人が、荒れた高原に黙々と木を植える。木のない山が森に育ったらどんなに素晴らしいだろうと。

コナラのどんぐりを植えていく。でも、育った木々は第一次大戦で焼き尽くされる。それでもひとり木を植え続けた。55歳から89歳で安らかに息を引き取るまで。いつしか砂漠のような高原は緑豊かな森に成長する。

「木を植えた男」という本のあらすじである。いま、世界の国々で静かな人気を呼んでいるという。知人に薦められ読んだが、やはり感動した。原作はフランスの作家、ジャン・ジオノ。南仏のプロバンス地方の話。

木を眺めること、木を植えること、そして森の中を歩くことが好きになる物語だ。

翻つてもっと昔、岡藩が招へいた熊沢番山先生も、杉、松、けやき等植林を勧めたことは余りにも有名だと聞いたことがある。

12月の竹田市議会は「全国森林環境税の創設を求める意見書」を全会一致で可決し、政府に提出した。

木を植えることの尊さ、そして平和でなければ森も守れないことをしっかり考えたい。

(編集委員長 加藤正義)

12月定例会を 振り返って

副議長 足達寛康

第4回定例会が、12月6日から22日までの17日間開催され、議案19件、陳情4件、継続審査中の請願1件、陳情2件、意見書4件の計30案件について慎重審議の上、それぞれ下記（主な議案の審議結果）のとおり議決された。

一般質問は3日間で12名の質問者があり、特に今回はケーブルテレビ（CATV）関係で6名、いじめ問題で5名と、集中型の論議が展開された。中でもケーブルテレビ事業については、再建団体への突入が危惧される中での巨額の投資への不安、疑問、市民への情報の早期提示等々について、活発に質疑応答が交わされたが、一抹の不安を感じた一般質問であった。

今回提案された議案の中で、簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例及び農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例については、合併後の統一基準に係る竹田市簡易水道料金等検討委員会の答申を受け、水道料金や使用料、新規加入金などの改定を行うというものである。議案質疑では、簡易水道料

金について、水道料金等検討委員会の経過等の説明や答申についての答弁があり、また、料金が上がる地域と下がる地域があるが、住民に対して、改定理由・根拠などを詳しく周知してほしいなどの要望が出された。



活発な議論が交わされた12月定例会

また、今回の補正は、一般会計では、78.1万円の増額で、総額185億8千万円と、小幅となった。予算特別委員会では、情報化推進整備計画策定委託料の減額補正に関連して、ケーブルテレビ事業基本計画委託内容についての説明や住民の意向が反映されているのかなどの質疑が出され、執行部からは、これはあくまでも、検討の資料を提出してもらおうためのものだと

答弁があった。また、ケーブルテレビ事業のハード部分の整備ができて、その活用に多大の費用がかかるが、プロジェクトチームで真剣に議論してほしいとの意見など多くの質疑が出された。

ケーブルテレビ事業は、定例会前の研修会等でも執行部から説明があったが、一般質問や議案質疑の答弁では満足できず、最終日の全員協議会では、さらに深く勉強するべきとの意見が多く出され、特別委員会を全員で設置し市民の皆さんへ諸々の情報を提供することになった。

中山間地域等直接支払交付金過払いの件については、議員には市民への説明責任があるが不十分であり、再度執行部へ経緯や事実関係について詳細に説明を求めることとし、場合によっては監査委員に監査を求めることも検討することとなった。

また、一般質問には無かった「花水月」は特別委員会で検討しているが、大いに議論すべき問題である。

本年も厳しい財政状況が予想されます。全議員一丸となり山積された難問題の解決と再建団体にならぬよう、将来的展望に立ち最善策を講じてまいる所存でありますので、市民の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第四回定例会

《主な議案の審議結果》

- ▽竹田市祖母山麓体験交流施設「あ祖母学舎」条例の一部を改正する条例について 可決
- ▽竹田市農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例について 可決
- ▽竹田市コミュニティ・プラント事業分担金徴収条例の一部を改正する条例について 可決
- ▽竹田市簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例について 可決
- ▽竹田市水道事業給水条例の一部を改正する条例について 可決
- ▽竹田市と豊後大野市との間における消防及び救急業務に関する事務の委託の廃止について 可決
- ▽大分県後期高齢者医療広域連合の設置について 可決
- ▽平成18年度竹田市一般会計補正予算（第5号）について 可決

《請願・陳情の審査結果》

- ▽障害者自立支援法の見直しを求める国への意見書の提出をお願いする陳情 採択
- ▽医療制度改正に関する国への意見書の提出をお願いする陳情 一部採択
- ▽「最低保障年金制度」の実現を求める国への意見書の提出をお願いする陳情 採択
- ▽国保・介護保険の保険料・利用料減免制度の創設と拡充を求める陳情 採択

《継続審査中の請願・陳情》

- ▽長湯温泉街活性化に関する請願 継続審査
- ▽市道上野線の改良に関する陳情 採択
- ▽直入幼稚園正職員教諭の三名体制確保に伴う陳情 継続審査

《意見書の審査結果》

- ▽全国森林環境税の創設を求める意見書 可決
- ▽障害者自立支援法の見直しを求める意見書 可決
- ▽医療制度の改正を求める意見書 可決
- ▽国民が安心して老後を暮らせる社会の実現を求める意見書 可決

一 般 質 問

平成18年第4回定例会は、12月6日から22日までの17日間の日程で開かれました。12月11日、12日、13日の3日間、12人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。
なお、原稿は議員本人が執筆しています。



中村憲史 議員

秋・久住高原フェスタ 久住高原牛肉祭りをさらに 発展・充実させるには

中村 これまでの牛肉祭りの経緯を無視し、一方的にトップダウンにおいて押し進められ、また、祭りが成功するかどうか不安視する者（今年は中止すべき）がいる中で開催されたが、当初の不安が現実のものとなった。市民の皆様方からいただいた数多くの反省点を謙虚に受け止め、今後の畜産振興に生かさなければならぬ。

実行委員会の検証は、久住総合支所長 開催日・会場の変更などにより、入り込み客が大幅に減少した。当初目的の牛肉の消費拡大、畜産振興及び

地域の積極的な参加を得ることができなかった。次年度は実行委員会において十分に検討する。
中村 交通対策はどうだったか。企画情報課長 パンフレット等の不備については把握していないが、今後はしっかりと対応したい。



会場となった「グライダー滑空場」から久住山を望む

中村 他部門との同時開催は、市長 他のイベントは、盛会であった。今後も理解をいただきたい。
中村 決算において大きなウエイトを占める委託費及び物産店

の出店料はどこに支払われたのか。

企画情報課長 物産店の出店料1万5千円、ステージ設営費199万4千円はT A Oへ支払った。

中村 開催場所はどこか。

市長 以前の開催場所における交通状況及び今後の交通対策等を考えた時、今回の場所が適当であると思う。今後も竹田市の大きなイベントとして発展させたい。

中村 この他、いじめの現状と対策について、市内のいじめの実態（小・中学校）・対策と効果・他市の事例について質問を行った。



吉竹 悟 議員

秋・久住フェスタについて

吉竹 合併一周年記念と位置づけたフェスタであったが、7日の久住高原祭りは例年の4分の1の来場者にとどまった。8日は約1万人を迎え大盛況と、明暗が分かれた。36回を迎えた高原祭りには、暗い影を残したと同時に、地元実行委員会や関係

者に多くの不満を与えた。3月の当初予算以降、取り組みや実行委員会との連携、協議が充分でなかったのではないかと。企画情報課長 当初予算で花火大会の計画の同意を得、更なる久住の発展を考えフェスタに取り組んだ。花火の安全性、6千人の来場者収容、及び交通・駐車場問題の解決策として滑空場を選定した。実行委員会との協議は充分行つたと考える。

吉竹 協議の内容や場所選定の理由、結果の周知が一方的で、関係者の意見を聞くという行為が無かつたことが問題ではないか。来年も行いたいとの意向だが、同様の企画では関係者の協力は得られない。どう考えるのか。反省点も多々あるがどうするのか。

企画情報課長 イベントの情報の開示の面で課題があつたと思う。事務局として気付かなかつた点もあつた。反省点を生かしたい。地元との協議も重要である。

市長 続けたいと考える。滑空場の採草の件、T A Oとの協議もあるので現時点では言明できない。

観光協会のありようについて

吉竹 観光協会を一つの産業として捉え、統一することを急ぐ

べきではない。よりそれぞれの色を磨くべきである。竹田研究所は市全域を見据えるべきではないか。観光客の減少に歯止めを。

産業建設部長 各協会は独立し特色あるイベントを実施している。18年7月策定の観光振興計画のうち、当面の課題が協会の統一と考える。強制することはできない。

C A T V について

吉竹 現状の地域格差を考えれば当然必要なもの。しかし、財政面での不安は解消できるのか。市民への説明責任が果たせていない。今後の情報の周知や説明会は行うのか。

企画情報課長 計画策定を行う中で具体的な要綱を定め、市民への説明会を考える。



後藤憲幸 議員

本年産水稲について

後藤 過去最悪の作況となった水稲の共済金を貰えない農家が多い。こうした事を受け、農協

は国や県に特別対策の実施を働きかけているが、市も行動を共にしては。

産業建設部長 市としてはできるだけ手助けはしていく。共済金については野帳の提出が条件だが、昨年並みに出そうだ。県もこうした事を重く受け止め、低利融資の資金を用意しているので利用していただきたい。
後藤 作況を早めに察知して被害を呼びかける指導も必要では。
産業建設部長 農家と農協、市と一体になって調査をする。

学校のいじめ対策について

後藤 子供のいじめが全国的に多発している。特に自殺者が出るという最悪の状況になっている。いじめの発端は、からかいや冗談から始まり、登校拒否になり発展していくと言われているが、当管内の現状は。

学校教育指導室長 教育委員会としては県が教育研修する場で指導教育し、教師の資質向上に努める。職員会議等でいじめに對する取り組みをし、早期発見に努める。また学級活動の中で聞き取り調査をしながら、家庭と地域の緊密な連携を取り、いじめが起らないように努める。
後藤 この地域はマンモス校と違い日が届くと思うので、いじめのない学校にしていきたい。

出荷できないトマトの加工について

後藤 穴あきトマト等を加工し、ワインや焼酎はできないか調査を。商品化できれば、そういうトマトが市場に出なくなり、価格の安定化につながる。
農林畜産課長 ワインは難しいようだ。焼酎は製造しているところもあるが、使用量が少ないため効果はあまり期待できない。加工品は現在、ケチャップなどの材料として約50t利用している



佐田啓二 議員

秋・久住高原フェスタをどう総括するか

佐田 秋・久住高原フェスタは実行委員会をはじめ多くの市民の協力により成功したと思うが、実行委員会・各種団体・市の関係課との連絡・調整は。

企画情報課長 地域の一体感の醸成や久住高原を外に売り出すという目的で取り組んだ。多くの団体からなる実行委員会を組織し、協議してきた。TAO公演についても、連携はうまくいき目的は達成されたと思う。

るが、規格外品をより多く加工処理するため、新商品の開発、消費動向の把握など、今後とも調査研究を進める。



荻で作られているトマト加工品

佐田 行財政改革の最中でのイベントだが各課が抱える事業への影響は。

総務企画部長 4月〜11月まで8か月を費やし、成功に向け取り組んできただけに事業への影響は大なり小なりあるが、残された期間で取り戻したい。

佐田 第5回牛肉祭りは時期・場所ともに実施主体の和牛振興会の意向が反映されていない。本来の目的である久住高原の大パノラマをPRするとともに、竹田市和牛を宣伝し和牛農家の振興を図るという趣旨を考えたとき、今回の牛肉祭りをどう評価するか。
久住総合支所長 一周年記念実行委員会で決まる前に和牛振興会の実行委員会が開けなかったことは一つの反省点であった。

諸条件が重なりお客の入り込み数が少なかったことは最大の反省点だ。従来目的に少し届かなかったと思う。(来年は)発展的に実施したい。

佐田 今回の秋・久住高原フェスタはTAO主導であったと思うが、牛肉祭りとはTAO公演と花火大会についてどう総括するか。
市長 高原祭りは天候や、場所の変更で不遇であったと思う。TAOの公演、花火大会はあれだけの人が集まった。経済効果も大きく、久住高原の素晴らしさもPRでき、明日につながるイベントができたと思っている。TAO主導というが、私は竹田市をPRする上でTAOを充分利用させてもらったと思っ

佐田 市長の思いは思いとして、反省点は真摯に受け止め来年につなげてほしい。
その他に、ケーブルテレビ(事業費約40億円)について市民への周知と慎重な対応について要請した。

教育問題について

森 哲秀 議員

議員 ぶんとう記

夜の部がオススメ!

今年のチャリティーショーで出演者がそろって練習したのは2日間のみ!皆さん台詞をよく覚えたものだと感じる。もとい、各議員は始めからちゃんと覚えようという気はさらさらないうだ。台詞の多かった(おええ)を連発していた)議員は聞き直っていたし、気立てのよい女房役の議員(少々色は黒かったが...)はいつアドリブを入れようか狙っていたし、悪徳商人役の議員(一番よく似合っていた)は地元の宣伝に力が入っていた。議会の寸劇に期待されるものを皆さん心得ているようである。



寸劇「こいがめ」で大奮闘

昼の部は、一応台詞を気にしながら演じるので、少々硬かっ

森 基礎・基本の定着状況調査（一斉学力テスト）について、今年4月に小学5年生と中学2年生を対象に実施されたが、結果は。また、今後の指導は、**学校教育指導室長** 学習指導要領の目標値をクリアした学校は小学校15校中7校、中学校6校中2校、計9校の学校名が公表された。小中学校で、読み書きは県平均を大きく上回っている。計算力の平均到達度は、小学校でやや下回っており、今後の課題として取り組んでいく。中学校は県平均を大きく上回っている。本市においては学力が向上していると感じる。今後は、小6年生で実施している調査を4年生で実施し低学年段階で学力の実態を把握して、その後の指導につなげる。基礎・基本の着実な定着は、家庭での生活習慣、学習習慣とも密接に関係していることから、学校と家庭との連携のあり方を今一度見直し、学校と家庭が一体となった基礎・基本の定着により確かな学力の保証に向け取り組みを充実する。

今年の稲作について

森 今年の大不作をどう分析するか。また、今後の対策は。**産業建設部長** 平成18年産米の作況指数は県平均79、竹田地域は89となっている。全般的に日照不足と登熟期の乾燥、更に台風13号が追い討ちをかけ被害が大きくなった。今後は有機質・微量要素を含んだ土壌改良剤の施用等により、より地方向上を図り、気象変動や災害に強い品種の改良等により米作農家の経営安定を図る。

照不足と登熟期の乾燥、更に台風13号が追い討ちをかけ被害が大きくなった。今後は有機質・微量要素を含んだ土壌改良剤の施用等により、より地方向上を図り、気象変動や災害に強い品種の改良等により米作農家の経営安定を図る。



4年連続して不作となった米

森 大分県の米は、ヒノヒカリに偏り過ぎた。ヒノヒカリに取って替わる品種はないのか。**農林畜産課長** ヒノヒカリに替わる品種として、県では大分イレブンを新品種として研究している。12年から現地試験を行い、17年から実証圃として九重野・久住地区で作付けを行っている。ヒノヒカリに比べ、5〜7日早い早生種で多収が見込める、薬質が堅いため倒れ難くイモチ病に強く良食味である。今後は実証圃の成果を見ながら本市の気候風土等条件に合えば普及推進する。

森 他に鳥獣害実態及び被害対策について質問した。



大塚哲生 議員

いじめについて

大塚 現状と実態、対策は。**学校教育指導室長** 県教委からのいじめ問題に対する通知を受け、市内全ての小・中学校において、「いじめ問題に関する緊急調査と、これまでの指導の点検」についての実態調査を行った。その結果、いじめ問題の件数は、小学校4校で6件、中学校4校で5件、合計8校で11件のいじめがあった。いじめの解消状況については、小学校1校で1件、中学校2校で2件である。現在、指導継続中が5校で8件である。

竹田市教育委員会は、いじめの実態把握と早期解決に向けての具体的な取り組みを提起した。
①児童、生徒の生活指導上の諸問題に関する職員会議、研修会の定例化
②日常的・継続的な児童・生徒の実態把握と情報の共有化
③人権尊重を基調にした組織的、継続的な生活指導の充実
④人権教育の充実、特に民主的な学級集団作りの推進

障害者自立支援法について

大塚 障がい者区分認定及び地域生活への条件整備は。**福祉事務所長** 竹田市自立支援認定審査会では、9月末までに43件の審査を終え、区分1は16名、区分2は12名、区分3は6名、区分4は5名、区分5は1名、区分6は3名の合計43名であった。

就労については、ハローワークなど関係機関と連絡をとり、企業等にお問い合わせ。生活支援についてはグループホーム設置事業者以上に整備に向けたお願いをする。建設にあたっての補助制度については、「竹田市社会福祉法人の助成の手続きに関する条例」を適用し事業促進を図る。

これからの支援のあり方については、地域相談センターの充実、障がい者就労継続サポート事業、児童デイサービス利用促進事業を引き続き実施し、地域生活支援事業については利用者負担率を5パーセントにするなど、竹田市独自の支援を継続する。

今後PTAの席上や、学級懇談会、学校だより等、様々な機会や方法を通じて、いじめを許さない取り組みを保護者・地域住民の方々と一体となって推進をしていくことが重要である。

シャネル、ヴィトン、馬路村

井 英昭

人口わずか1,200人の高知県馬路村。村への道は、まさに「馬路」。1車線の細い道が、清流に沿って続いている。この小さな村を視察研修したいと、1・2期生の有志10名が立ち上がった。この村にはきつと、「小さな自治体の大きな宝がある」と。

馬路村の活性化戦略は、美しい自然、ゆったりとした生活などの「村のイメージ」を村の加工品のラベルやポスターで、消費者に伝えること。そのことで、商品への信頼を獲得し、ひいては村の価値まで上げているのだ。



宝石の原石「馬路村」での研修

教育委員会の可能性



土居昌弘 議員

土居 教育委員会の歴史的使命は、終わっている。全国どこの教育委員会を見ても、形骸化している、といった教育委員会の廃止論や縮小論が国のレベルで議論されている。竹田市教育委員会は、いかがか。

教育長 現行の教育委員会制度を維持すべきと考える。教育委員会は、教育の中立性・安定性の確保、地域住民の意向の反映などといった機能を持った合議制の教育行政執行機関。その存在意義はある。

土居 それでは、その機能を十分に発揮していただけるよう配慮していこう!!教育委員会の活性化、そしてまた、教育委員会がおかれている環境の改善をしていこうではないか。ではまず、委員会の構成、委員の選出基準は。

土居 それでは次に、委員会の活性化方策は。
教育長 教育委員会開催後に、地域の教育課題について議論をしている。また、委員会です十分な議論をしていただくために、議案を事前送付している。更には、教育委員の研修もある。教育委員会活動の広報については、これから考えたい。
土居 竹田市教育委員会が、主体的に取り組む教育課題は。教育長 少子化に伴う児童・生徒の激減。長期総合教育計画審議会で、向こう10年の教育のあり方を審議中。平成20年3月



井 英昭 議員

ケーブルテレビの料金について

井 ケーブルテレビを導入した際に、市民が毎月払うようになる料金について伺う。

企画情報課長 現在のところいくらになるかは断定できないが、他市を参考にしながら決めていきたい。県内では5000円から1,5000円で、竹田市でも1,5000円程度は頂きたい(注) テレビ基本料のみ、通信は別)。

その答申を受け、それに基づいた主体的な教育行政を進めていく。
土居 教育委員会を取り巻く環境の改善策はどうか。教育委員会が十分な活動ができるかどうかは、その活動を支援する教育委員会事務局にかかっている。今の態勢で十分か。
教育委員会総務課長 教育委員と一緒に研修を受けている。教育委員会の役割について学び、教育委員会事務局職員としての資質の向上を図っている。
土居 よその自治体では、事務局の専門職員を育成しているところもある。参考にして下さい。

地域交通対策について

井 昨年から路線バスに関する質問で、6路線の廃止が明らかになった。いったん廃止になった久住く長湯く庄内線は竹田市が運営主体となって委託し、存続している。新たに廃止の予定があるか伺います。
企画情報課長 株竹田交通の説明では、経営状況は厳しいが、新たに廃止を申請することはないと聞いている。
井 新たに策定される地域交通計画で、福祉バス・スクールバス・路線バスの性格を合わせたコミュニティバスの導入は検討されるか伺う。
企画情報課長 先日、市民に交通に関するアンケートを行った。地域交通会議を開き、アンケートをもとにコミュニティバス導入の可能性も検討していく。

国道442号バイパス開通後のまちづくりについて

井 久住地区では平成21年の完成を目指し、国道442号のバイパス工事が進んでいる。工事の進捗率を伺う。



工事が進む久住バイパス

久住総合支所長 進捗状況は66%
井 用地取得率を伺う。
久住総合支所長 用地取得率は97%~98%。

葛飾区教育委員会に学ぶ

土居昌弘
直入地域選出議員を主に5名の議員で、東京都葛飾区教育委員会を訪問し、平成15年に策定された「教育振興ビジョン」について研修をしてきた。

直入地域選出議員を主に5名の議員で、東京都葛飾区教育委員会を訪問し、平成15年に策定された「教育振興ビジョン」について研修をしてきた。
地方分権の流れの中、市区町村独自の取り組みが求められており、当区では地域の実情を考慮し「確かな学力の定着」「豊かな心の育成」「新たな学校の取り組みと家庭・地域社会との連携」の三つの柱のもとに様々な施策を掲げ取り組んでいた。柱の一つである「確かな学力の定着」では「授業時間の確保」の取り組みについて苦心された様子を伺った。一例として、中学校における夏季休業日の縮減である。シミュレーションを重ね、その効果や課題を探り、教育環境を整えて、規則改正ができたとのことだった。
教育は将来の社会を担いうる人間を育てるという点において

井 今後、住民と行政が一体となつて取り組むべき課題と考えるが、住民の方から勉強会などの声が上がったとき、行政として支援する気持ちはあるか。

久住総合支所長 行政としてもそのような会が必要と考へる。そのときは行政のできる範囲で支援していく。



荒巻文夫 議員

農政（18年度の成果、今後の課題と計画、産地・産品作りについて）

荒巻 今年も異常気象で、野菜等は価格が低迷し、米も刈り取ってみると今までにない減収で、共済も刈り取っているのが対象とならない。市の対策は、

市が推進しているプラムについて、今後は短期間で産地拡大をしなくては、産地間競争にも勝てないし、特産品として売り出していけない。今後の計画は、

畜産について、肉用牛は最近市場価格も上昇しているが、豊肥市場は他の市場と比べるとやはり下位の方に位置している。上位に行くには、県外からの家畜導入を図り、県外の良い牛の

種を入れる必要があるのでは。産業建設部長 災害に対して市としては借入者の利子補給をしている。米についても水稲共済があり、野菜等は野菜価格安定対策事業がある。これらを利用していただきたい。

農林畜産課長 プラムは市の第三の果樹として生産振興していく。まずは目標として1億円を目指したい。試算では成木になると10a当たり約2t収穫でき、12・5haの作付で1億円になる。

今年度、約7haの作付で、残りについては平成20年までを目途に面積確保を行う。産地育成と合わせて生産、販売方法などの検討を行い、生産部会を含む各関係機関の協力を得ながら販路の確保に努めたい。



産地育成を図っていくプラム

家畜の県外導入に対する補助事業は2種類あり、国の施策により、17年度から18年度で終了する。一つは、市が事業主体となり繁殖雌牛を購入し、この牛を5年間無利子で貸与し、この貸間一括償還する制度で、この貸

付事業は国の分は17年度で終了したが、県費分については活用できるよう県に要望している。二つ目はJA大分みどりが主体となり、1頭当たり9万2千円を補助するものであるが、国の制度改正により、これも18年度で終了の予定である。



古井久和 議員

中期的な財政収支の試算（5か年間の財政計画）と現状の推移について

古井 平成17年度の決算状況は既に認定されたが、構造的に非常に深刻な状態であり、非常事態に陥っているとの市長の認識が示されている。現在どのような状況にあるのか。

財政課長 中期財政計画は国の財政方針に基づき、また県の指導を受け、主たる歳入である地方交付税、市税の見込み、主な

事業や行財政改革など、諸々についてこの計画を策定しているが、数字はかなり変動がある。地方交付税が右肩下がりになるなど大変厳しい財政運営の状況である。大事なことは、財政調整基金や減債基金などの基金をいかに減らさずに持ちこたえるかということである。

ケーブルテレビ施設整備事業導入後の財政運営は大丈夫か

古井 約40億円のこの事業を含め、平成18年〜平成21年の間に約120億円の起債（借金）を発行する計画になっているが財政運営は大丈夫か。

財政課長 正直いって大変厳しい財政運営になる。大きな事業についてはキチッと財源確保を行い交付税措置の高い地方債を活用するなど、財政負担を軽くしながら、経常経費を削減していく。同時に職員意識改革も実施している。

竹田市における少子化の及ぼす影響と取り組みの状況は

古井 出生数の推移は昭和55年403名。平成17年140名となっている。今日まで国、県一体となった取り組みが実施されてきたが、依然として進行している。市政に対する影響と今後



一行に研修を受ける熱心

重要である。子どもの健全育成に今何が求められているのか、学校、家庭、地域社会が共通認識のもとにお互い連携、協力して取り組むことが大切だと確信した。

小代一幸

市長 地域経済の成長の停滞・縮小を来す。少子化問題は最重要課題と認識し、子どもへの歓声が聞こえる街が素晴らしい街である。出生率の低下傾向の反転に向けて、少子化の背景にある社会意識の問い直しや、家族意識の再認識、更には若い世代の不安感の原因に総合的に対応していきたい。



渡辺龍太郎 議員

ケーブルテレビ事業について

渡辺 約40億円のケーブルテレビ事業について、どのような協議をしてきたのか。資料についてはこれまで議会で示された資料だけなのか。

企画情報課長 導入している県内各地から聞き取り調査し、基本計画を委託している日本農業システムの資料で協議している。

渡辺 ケーブルテレビでならぬ根拠はどこから出てきたのか。他の方法論と考え合わせて数字で示すことはできるのか。

企画情報課長 インターネット、防災機能、IP電話、TV難視聴地域対策等、総合的な判断でケーブルテレビが最善策と考えている。他の方法については、これまでイントラネットで敷設した部分は一部利用できるが、能力は全戸に引くには耐えないということ、金額的には検討していない。

渡辺 類似団体との比較をしているが、地域性でそのまま通用するとは思わない。高齢者数、生活保護受給者、非課税所得者等地域格差があるが、数字を出して検討したのか。また加入についてアンケートをとる等は検討したのか。

企画情報課長 基本計画を策定中という中で、1月頃業者によるアンケート調査実施を考えている。

渡辺 40億円、しかも竹田市が

再建団体に陥るかもしれないという事業。もう少し慎重に協議を進めるよう、担当課として努力をお願いしたい。

街なみ環境整備事業について

渡辺 6月に効率的な事業推進のため、18・19年度実施希望者を募集しているが結果は、建設課長 申し込み46件、優先順位はAランク10件、Bランク9件、Cランク13件、Dランク14件で、優先順位の高い中から10棟の基本設計を委託、第3回審査会で審査を行った。



街なみ整備助成事業により修繕された建築物

渡辺 今回重点地区を設けているが、予算との関連はどうなっているのか。

建設課長 重点地区は、集中的に事業実施を行うこととなり、他の協定地区にも影響が出てくることが考えられる。平成22年までの事業であり、現状予算で

は困難。

渡辺 事業効果、4分の3の同意等を重く受け止め、事業推進のため、新たな予算投資を含め考えていただきたい。



大塚 廣 議員

ケーブルテレビをどう使いこなすか

大塚 先般の議員勉強会の際に執行部から示された資料によると、ケーブルテレビ事業で次の事を実現したいとなっている。①テレビを見る(難視聴地域対策) ②双方向ブロードバンド環境の整備 ③行政からの情報発信 ④IP告知を活用した地域コミュニケーションの構築 ⑤自主放送 ⑥行政窓口における地域住民とのコミュニケーションの改革 ⑦定住、企業誘致への活用 ⑧①⑦のことを「実現」するということと、以上のようなことが「できる」ということとは別の話である。「実現する」というのであれば、実現までのおおよその計画(日程)、財政の

裏付け、人的配置などが伴わなければならぬ。現時点で、どこまで検討が進んでいるのか。企画情報課長 ①⑦のことをやりたいということ、具体的なことは各担当課と今後検討を重ねていく。2月末に基本計画ができるが、活用方法まで触れたものにはならない。大塚 ランニングコストについて検討しているか。財政課長 財政課としては検討していない。大塚 そんな状態で、40億円にものぼる事業の善し悪しを判断せよと言われても議会としては困る。事業の計画延長はできないのか。企画情報課長 予定通り、19年に実施設計、20・21年で工事、22年開局としたい。大塚 ならば、3月議会(19年度予算審議)までに、具体的な活用方法に関しての計画を詰めることができるか。企画情報課長 庁内プロジェクトで最大限詰めて行きたい。大塚 答弁を聞いていて、具体的なことがほとんど検討されていないことがよく分かった。議会としても、よほど慎重に対応しないとイケないと思っている。

あとがき

▼五つの味(辛い、甘い、酸っぱい、しょっぱい、苦い)、五つの色(緑、黄、白、黒、赤)の食品をバランスよく摂るのが健康の秘訣。今年には食に配慮しよう。(伊藤孝信)

▼今年こそ、美味しい干し柿を張り切る連れ合い。雨のため150個程皮むきして吊るしたのは、11月も末。熱湯を通し、ネットをかける。朝な夕な、吊るした竿を担いで日向に出したり取り込んだり。はてさて、苦悶の果ては。(加藤正義)

▼道路交通法の酒気帯び運転の基準は、呼気1ℓ中のアルコールが0.15mg以上。事故を起こした人の半数以上が「自分は大丈夫」という、甘い判断で運転しているそう。家族みんなの為に、飲酒運転はやめよう。(徳水信)

▼初夢について調べた。特に縁起が良い夢として「一富士、二鷹、三なすび」と言われている。その起源については諸説あるが、徳川家康の好きなものを並べただけというのが一般的。また、「四扇、五煙草、六座頭」と続くこともある。(坂梨宏之進)

